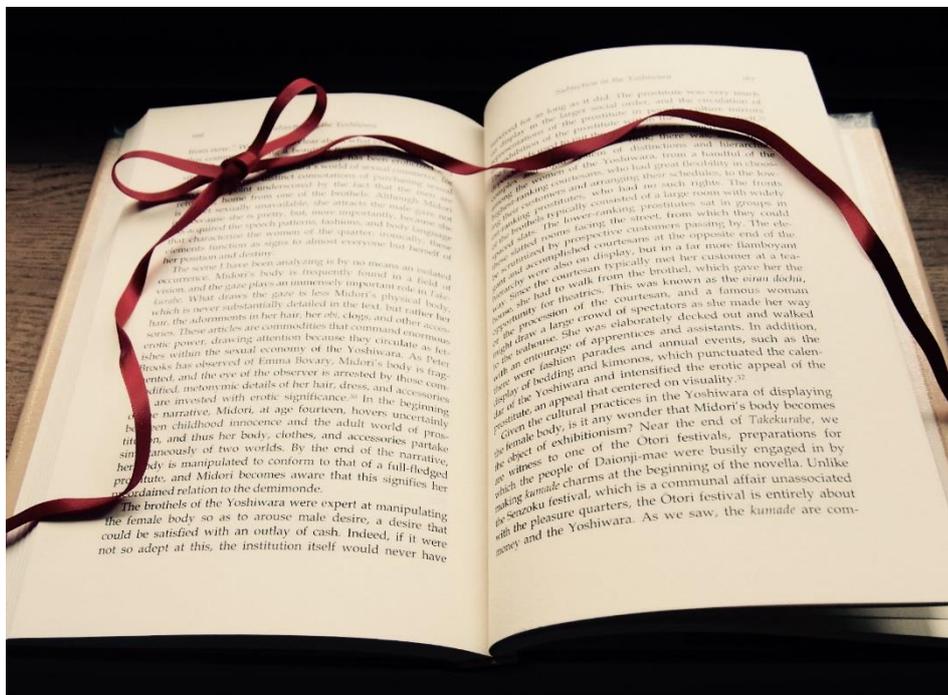


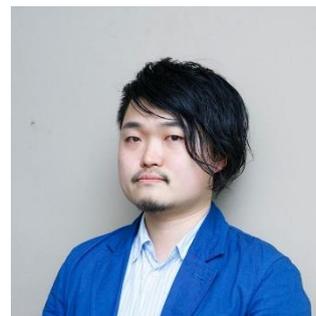
本を贈ることについて語るときに僕の語ること



4月23日は「サン・ジョルディの日」。スペイン・カタルーニャ地方では「本を贈る日」として知られていますが、ブック・コーディネーターの内沼氏は、「本を贈る」ことは一筋縄ではいかないと言います。カフェで「文庫本と飲み物」をセットにして出したり、売り物の古本に自由に書き込みができるようにして“世界に一冊しかない本”として売ってみたりと、本と人との出会いを作るプロジェクトを次々と立ち上げてきた内沼氏が、自身の手掛けてきた仕事について紹介しながら、本を贈ることの楽しみと苦しみ、気を付けたほうがよさそうなことについて話します。

講師 内沼 晋太郎（うちぬま しんたろう）

1980年生まれ。numabooks 代表。ブック・コーディネーター、クリエイティブ・ディレクター。一橋大学商学部商学科卒。ビールが飲めて毎日イベントを開催する東京・下北沢「本屋 B&B」共同経営者。書店のコンサルティングや選書などを手がける傍ら、読書用品ブランド「BIBLIOPHILIC」、街のシェアスペース「BUKATSUDO」、ウェブメディア「DOTPLACE」などのディレクションをつとめる。著書に『本の逆襲』（朝日出版社）、『本の未来をつくる仕事／仕事の未来をつくる本』（朝日新聞出版）など。「これからの本屋講座」という私塾も主宰。



開催概要

- 日時：2016年4月19日（火）19:00～20:30（18:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 4階 スタジオプラス（小ホール）
- 定員：60名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。